

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービスZEAL		
○保護者評価実施期間	R7年 1月 15日		R7年 2月 22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	R7年 1月 15日		R7年 2月 22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 3月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者様やご利用者様の意見を取り入れ、予定を計画している。	やりたいこと、行ってみたいところ、作ってみたいもの等、話合うようにしている。	一人一人が挑戦したいことを行い、成功体験や達成経験を増やしていくことで自己肯定感を高め自信につなげていく。
2	提携施設の利用(ボクシング・エステティックサロン)	提携施設のボクシングジムでのボクシングや運動療育で心や体を鍛える支援をしている。	精油と精製水でのアロマスプレーづくりの企画(精神的なバランスが取れたり、ストレス解消できるなどの作用があるスプレーづくりをプロが伝授。)親子で楽しむマッサージ講座企画(親子のコミュニケーションを図り、精神的にも落ち着く簡単なマッサージの仕方をプロが伝授)
3	なんでもフランクに報告・連絡・相談ができる、職員間の人間関係。	グループライン等で即座に情報共有・対応をしている。	課題や成果をITにより記録を残しやすくして、更にアップグレードできるようにする。
4	ボクシングジムでの療育を活かし、保護者様に質の高い療育の提供ができています。	ボクシングジムのトレーナー、プロボクサーによるボクシングの指導。体幹を鍛えたり、バランスをとったり、スタミナをつける療育。多様なトレーニングで発散する。	課題を事前予告し、上達と達成感を意識させることで持続させる。
5	毎朝の職員ミーティングの徹底。	毎朝、一日の流れ・職員一人一人の動きを共有し、ミスを防ぐ。	
6	学校休業日や祝日は、買い物訓練や公園、地域のイベント参加、おでかけなど、様々な体験ができる。	ご利用者様の意思を尊重し、裁量をもって活動に参加できるようにする。	児童同士で話し合いが出来るように職員が促す。
7	外部講師をよんでヨガができる。	職員も一緒にヨガに参加し、一緒に楽しみ整える。	職員が日常的にヨガについて説明等をして児童と一緒にヨガに親しめるようにする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎時間により、提示を超えて業務が残りがちになってしまう。	業務のマニュアル化が不十分のためミスが起こり作業が増えてしまうことがある。	業務のマニュアル化を徹底し、業務の無駄を削減していく。
2	宿題の指導が手薄になってしまうことがある。	児童発達支援の子の個別課題や送迎等の重なりで、事業所内に残る職員が少なくなってしまうことがある。	ご利用者様自身に相談が可能であれば、ワークやプリントなどで職員の目が必要な宿題のタイミングを重ならないように順番を決める。
3	小集団での活動に全員が参加できないことがある。	学校終了時間や宿題の量にムラがあるため、終わる時間がバラバラで小集団での活動で足並みをそろえにくい。	個別に取り組める活動を、放課後デイ用いくつか用意しておく。または、自発的に取り組める活動やワークを用意提供する。